

令和 4 年度 県立大洗高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の自主性・自立性を伸ばし、豊かな人間性と人格の形成を目指す学校 ・社会人として必要な知識と教養を身に付けた人材を育成し、保護者や地域の期待に応え、地域とともに発展する学校 ・普通科及び普通科音楽コースの生徒が、学習、文化・芸術活動等で相互に協力し合う活力ある学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>生活面においては、普通科第 1 学年において二人担任制を継続し、きめ細やかな指導の充実を図った。今年度は同制度を音楽コースで導入する。また第 1 学年全体でグループワークを LHR 等で実施したことにより、学校全体としても生活面での落ち着きにつながっていると思われる。今後も、社会情勢等を考慮しながら、生徒一人一人への支援・指導の充実した生徒指導を計画的に実践し、基本的な生活習慣の確立、社会性や規範意識の醸成へと繋げていきたい。</p> <p>学習面においては、基礎・基本を重視した学力の定着のために、少人数学習や習熟度別学級編成を積極的に導入・実施した。昨年度からは校外模試の結果で成績上位者を表彰するだけでなく、前回試験と比較して伸びが大きかった者も表彰することにした。これは自己肯定感が低い生徒にとって、自分を認めて受け入れるきっかけとなったが、今後も、基礎学力の定着を図るための創意工夫、改善が必要である。</p> <p>進路面においては、4 年連続で国公立大合格者を輩出することができたが、反面、就職においては昨年度より内定を得ることが難しくなっている。そのためには全校挙げての横断的なキャリア教育が必要であり、これまでの指導に加え、部活動を始めとする特別活動</p>	<p>基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚及び人間関係づくりを推進する。</p>	<p>①規則正しい生活習慣を確立させ、遅刻や欠席を減らし、高校生らしい服装・頭髪、身だしなみを身に付けさせる。</p> <p>②奉仕活動や清美活動に積極的に参加する態度を養い、勤労の心を育てるとともに、生徒の人間関係づくりを推進する。</p>	B
	<p>学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>③基礎的・基本的内容を重視した教科指導の充実を図り、基礎学力の向上・定着に努める。習熟度別少人数授業、ティーム・ティーチング等を積極的に取り入れ、全教科において ICT の活用、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの推進を図り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育て、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。</p> <p>④生徒の実態に応じた指導内容の検討や副教材を精選し、生徒の学習意欲を引き出す。</p> <p>⑤校内検定の充実を図り、一般常識及び基礎学力を定着させる。</p>	B
<p>生徒一人一人の資質・特性にあったキャリア教育を推進する。</p>		<p>⑥進路相談室（学習室）の効果的な利用を促進するとともに、資料コーナーの充実や各種ガイダンスを通して、生徒及び保護者への情報提供に努める。</p> <p>⑦早期に進路目標を明確にさせるとともに、キャリア・パスポートを活用して生徒の特性を把握し、生徒一人ひとりの希望に応じた的確な進路指導の充実を努める。</p> <p>⑧個人面談やガイダンスを計画的に実施するとともに、生徒個々の進路目標実現に向けた指導力の向上に努める。</p>	B
<p>特別活動、放課後サークル活動の充実を図る。</p>		<p>⑨放課後サークル活動等への加入率を高め、主体的に活動できる生徒を育成し、学校生活の活性化を図る。</p> <p>⑩生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図り、社会性や人間性を養う。</p>	B
<p>地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。</p>		<p>⑪学校に関する様々な情報をホームページ等により保護者や地域住民に広報し、学校の教育活動への理解を図る。</p> <p>⑫教務部広報広聴係が主体となり、学校評議員や地域住民からの意見を聴取</p>	C

別紙様式2 (高)

や地域との連携による探究活動など様々な活動を充実させていくことが今後の課題である。			し、適切な対応を行い、地域に密着した学校づくりの一層の推進を図る。 ⑬学校行事への住民参加及び地域行事・活動等への教職員、生徒の参加を推進し、地域との連携体制を構築する。			
		生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。	⑭積極的な生徒に対応するために、授業公開や授業研究、教職員研修を積極的にを行い、質の高い教育の提供を目指す。 ⑮業務負担軽減に向け、全教職員が業務を分担しながら積極的に学校運営に参加できる体制を構築する。 ⑯効率的な指導や業務改善を図り、勤務超過の時間短縮に努める。		B	
三つの方針		具体的目標			評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①自主・自立の精神を持ち、豊かな人間性と望ましい人格を兼ね備えた人財 ②時代や社会のニーズを捉え、社会人として必要な知識と教養を身に付けた人財 ③お互いを思いやり、学習面や文化・芸術面など多方面において協力し合うことのできる人財			B	日常の会話、日々の授業等のあらゆる場面で人間性、人格、芸術性を陶冶する姿勢が必要である。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①高い目標に向けて幅広い知識や技術を修得し、上位学校への進学に対応できる学力を身に付けた生徒の進路実現(進学系) ②多種多様な資格取得を通して、社会における実践力・適応力を身に付けた生徒の進路希望実現(資格系) ③基礎学力の定着を重視し、地域社会のニーズに対応した知識と教養を身に付けた生徒の進路希望実現(教養系) ④音楽を通して文化的・芸術的な心身を育成し、関東・全国レベルの大会での経験を人生に活かすことのできる進路実現(音楽コース)			B	それぞれのコースの趣旨と特性を各自が十分に理解した上で、生徒個人のニーズと能力に合った授業展開を大切にしたい。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①基礎学力の定着を図りつつ、校内外の様々な活動に挑戦し、その経験を活かして国公立大学など高い目標を目指したい生徒 ②放課後サークル活動、生徒会活動、奉仕活動などを積極的に行い、自分の将来に活かしたい生徒 ③音楽が好きで、入学後に関東・全国レベルの大会で活躍を目指して日々努力し、その経験を将来に活かしたい生徒			B	本校のアドミッションポリシーを、中学校ばかりでなく、地域住民にも広く知っていただけるような方策を考えていきたい。
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	生徒の実情にあった、基礎・基本を重視した授業を展開する。	目標を明確化した授業計画を教科ごとに策定する。④⑤⑭			B	新しい3観点による評価体制を全学年で常に共有できるようにする。
		観点別学習状況による評価の研究をより進める。③			B	
		基礎・基本を重視した学習内容を策定する。③④⑭			A	
		ICTを活用し、言語活動の充実とアクティブ・ラーニングの推進を図る。③⑭			B	
国語	基礎学力の向上を図る。	授業時の小テストやノートの定期点検により、生徒の個々の状況を正確に把握し、個に応じた速度・指導法を行う体制を整える。④			A	言語活動やICT利活用の研究を行い、生徒が興味・関

別紙様式 2 (高)

		生徒一人ひとりの能力を把握するため、授業中や課外における机間指導や声かけを重視するなど のきめ細やかな指導を行う。 ③④	A	B	心を持って主体的に取り組むことができるようにする。 さらに、次年度は生徒が自ら 考え表現する機会を増やして いく。
	文学に親しむ態度の育成に努める。	作家・作品に対する興味関心をもたせる工夫をする。 ④	B		
	授業内容の研究に努める。	図書室の活用や図書のおすすめなどを通して、読書習慣の定着に努める。 ④	B		
		教材研究や評価などについて十分に研究する。 ⑭	B		
		研修会・研究会へ積極的に参加し、その研修内容を教科で共有する。言語活動やICTの活用の 研究を推進する。 ③⑭	B		
地理歴史	基礎学力の定着を図る。	基礎基本を平易な言葉や例示で示し、資料活用や体験的活動も交えることで、関心・意欲を高め理 解度の向上に努める。 ③④	A	B	言語活動や ICT 活用の見直 しを行い、生徒が主体的に取り 組むことができるように する。
	学力の向上を図る。	「グローバル世界における日本」を意識しながら、学習内容を自らの課題としてとらえ、深め定着 させられるようにする。指導にあたっては ICT 機器の積極的な活用や言語活動の充実に留意す る。 ③④	B		
公民	基礎学力の定着を図る。	基礎基本を平易な言葉や例示で示し、資料活用や体験的活動も交えることで、関心・意欲を高め理 解度の向上に努める。 ③④	A	B	生徒の理解度に合わせた 授業の向上に努めることが できた。来年度は今年度以上 に ICT 機器を積極的に活用 していきたい。
	学力の向上を図る。	18歳選挙権の実施を想定し、本学習を通して、次代の民主社会を担う主権者としての自覚を高 める。指導にあたっては ICT 機器の積極的な活用や言語活動の充実に留意する。 ③④	B		
数学	基礎学力の向上を図る	学習内容の定着のため、小テストを利用して理解度を把握し、必要に応じて補講を実施する。 ④	C	B	1年生は新課程での初年 度で、授業の進度に反省があ り、小テストなどの時間の確 保ができなかった。次年度は 小テストをもっと実施した い。 就職する生徒が多いが、就 職試験を自信を持って受験 できる学力を身に付けられ る指導が必要である。
		少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討 する。 ③④	A		
		毎時間、前時の復習をすることで授業内容の定着をはかる。 ④	A		
		アクティブ・ラーニングを通して生徒に考える力や表現する力を身につけさせる。 ③④	B		
	授業に取り組む姿勢を育成す る。	授業のノートを定期的に点検し、学びの基礎・習慣をつける。 ④	A		
		発問の工夫をし、授業に集中させる。 ④	B		
		机間指導の時間を増やし、生徒一人ひとりとコミュニケーションをとる。 ③④	A		
	授業内容の向上を図る。	教材研究を充実させ、生徒が興味関心をもてるような授業を展開する。繰り返し学習を行い、知識 定着を図る。 ③④	B		
		教科会を密に行い、授業内容・方策等について教科内で研究協議する。 ④⑭	C		
		その日の授業の重要箇所を強調し、授業にメリハリをつける。 ③④	A		
進路に応じた指導を行う。	就職活動に必要な数学の問題も授業で扱う。 ④⑤⑦	C			
	進路に応じた課外を放課後に行う。 ④⑦	B			

別紙様式 2 (高)

理科	基礎・基本の学力の定着	授業での机間指導や課題の提出を徹底し、質疑応答などの言語活動を通して理解を深め、授業に真剣に取り組む姿勢の定着を図る。 ③④	B	B	ICT を用いた授業展開について引き続き授業研究を行っていききたい。 実験器具や薬品等が不足がみられるため、充実を図っていききたい。	
		単元ごとに確認プリントを用意し、学習事項の理解度の把握に努める。 ③④	B			
		長期休業中に成績の思わしくない生徒への課外を実施し、基礎的な事項の理解を図る。 ④	A			
	科学に対する関心の向上	演示実験や視聴覚教材、ICT 機器の活用を積極的に図り、学習に対する関心・興味を引き出すよう努め、体験活動への意欲へと発展させる。 ③	A			
		大洗町生涯学習課・大洗わくわく科学館など地域との連携に努める。 ⑬	B			
		進路希望に応じた個別指導を実施し、発展的な内容の学習を通じて科学への探究心を養う。 ④	B			
保健体育	基礎体力の向上、健康保持増進を図る。	年間を通し筋力トレーニングやストレッチ運動を取り入れ運動量の確保を図り、基礎体力の向上を目指す。(体力テストAランク+体力テストBランクの割合35%を目標) ④	B	B	・体育館の整備を依頼し ICT を活用した授業を展開できるよう努める。 ・体育のペーパーテスト出題範囲に書かれている審判の内容等を実践で生かし審判の技術向上を目指す。	
		必要な情報を収集し、健康で安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、課題解決能力の育成を図る。 ③④	B			
		運動前後の体調管理に気を配り、ケガや風邪などの防止を図る。 ①				
	生涯にわたって計画的に運動に親しむ能力の育成に努める。	選択種目を設定し、自らが計画し状況に対応した特別ルールなどを発表する言語活動を充実させる。そして、それに基づいた運動を継続的に行えるようにする。 ③④	A			
		公正、協力、責任などの態度の育成に努める。	用具等の準備・片付け、また競技における審判など、各役割を分担しお互いに協力して安全に取り組めるようにする。勝負に対して公正な態度がとれるようにする。 ②			A
			時間、整列、挨拶、礼儀等についても指導し、基本的な生活習慣を確立させる。 ①			A
芸術 (音楽)	芸術の幅広い活動を通して生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め芸術の豊かな情操を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことができる題材を精選する。 ④	A	B	継続して、電子黒板やタブレット端末を活用した授業を研究し、言語活動の充実にも努める。多様なジャンルの音楽に触れることのできる授業について更に研究したい。	
		ティーム・ティーチングを活用し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ③	B			
		様々な楽器の基礎的奏法を身につけさせ、体験活動をより充実させる。 ④	B			
		より多様なジャンルの音楽に触れさせる。 ④	A			
		鑑賞活動や表現意図を言葉にする活動を通して、言語活動の充実を図る。 ③④	B			

別紙様式 2 (高)

外国語	基礎学力の定着を図る。	生徒が取り組みやすく、学力の向上に結びつくような教材の研究に努める。 ④	A	A	基礎学力の定着を継続して取り組む。 習熟度別授業を活用し、レベルに応じた指導を実践することで、実力の向上をめざす。 ALT との T-T や ICT を活用して、言語だけでなく文化についても興味関心を高める工夫をする。
		習熟度別授業やティーム・ティーチングを実施し、スローラナーへの対応に努める。 ③④	A		
		習熟度別少人数編成授業やティーム・ティーチングを実施し、生徒一人一人の興味・関心・疑問に答えられるようきめ細かい指導を行う。また必要に応じて、個に応じたレベルの放課後課外を実施する。また定期考査でもレベルに合わせた考査の実施を行う。 ③④	A		
	興味関心の幅を広げる。	テキストを読むことで異文化に対する興味関心を高める。また ALT との言語活動を通して生の英語に触れる機会を増やす。 ③	B		
	ICT を活用する。	タブレットや電子黒板を活用して効果的な資料の提示や双方向の活動をすることで、英語や異文化に対する興味関心を高める工夫をする。 ③	B		
家庭	家庭生活に役立つ基礎学力の定着	衣食住を見直し、基本的な生活習慣の確立を図る。 ①③	A	B	引き続き、実習の充実、ICT の活用を促進させる。成人年齢の引き下げに伴う社会との関わり意識させた経済と共生に力を入れる。
		実験実習を取り入れ、実生活に生かせる授業を展開する。 ③④	A		
		学習ノートや課題プリントを通して、言語活動の充実を図る。 ③④	B		
		成人年齢引き下げに伴い、消費者教育の充実を図る。 ③④	B		
	生徒が積極的に取り組める授業の改善	授業に臨む姿勢の確立を図る。 ①	A		
	一人ひとりの体験を取り入れ、生徒の学習意欲を引き出す。 ③④	B			
	校内外の研修に積極的に取り組み、生徒の実態にあった授業の展開と指導方法の確立や教材の開発に努める。 ③④	B			
情報	情報リテラシーの基礎・基本を重視した授業を展開する。	ティーム・ティーチング等を実施し、個々の生徒の疑問に答えられるよう充実した指導を行えるようにする。また、実生活との密接に関わった事例を用いることで興味関心を引き出し意欲的に授業に取り組めるようにする。 ③④	A	A	情報リテラシー・メディアリテラシーの醸成を図り、学習したことを実生活に活かせるような授業の展開を行う。 個人所有の端末による Google for education の活用など、学習活動で情報端末の活用が定着するような指導を行う。
	実践例を用いて情報モラルの指導を実施する。	インターネット等の授業を行う際に、具体的な例（メールなどを利用した各種請求等）を取り上げるなどして、情報モラル・エチケットの定着を図る。さらに、生徒に発表する機会を与え言語活動も充実させる。 ④⑤	A		
商業	情報活用能力の育成を図る。	商業の基礎・基本に加え、ビジネスに即した情報の能力を育成できるよう個別の指導を充実させる。ビジネスの実践的な内容を交えた授業を展開し、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育み言語活動も充実させる。 ③④	B	A	新課程における検定指導の研究および工夫を継続して行う。 検定の取得を通して実務に即した技術を身につけさせる。
	検定試験に対応できるような授業の展開を行う。	ビジネス文書検定・電卓検定に加え、情報処理検定等に対応した授業や体験活動を行う。資格取得実現のため、放課後の課外学習を充実させる。 ⑤	A		

別紙様式 2 (高)

音楽	音楽に関する基礎的な知識及び法則を習得させる。	生徒の実情にあった副教材や課題を精選する。 ③④	A	A	次年度も継続して、TTを中心とした複数名での授業を展開する中で、生徒の実態に応じて、きめ細やかで丁寧な指導の充実を図る。
		基礎理論を幅広く身につけられるようにする。 ③④	B		
	器楽・演奏研究の演奏に関する知識や技術を習得させ、音楽性豊かな表現の能力を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことができる題材を精選する。 ③④	B		
		学期に1回の技能テストに、明確な到達目標を設定し、基礎的な演奏力の伸長を図る。 ④	B		
		個人レッスンの充実を図り、より体験活動を充実させる。 ④	A		
教務	基礎・基本を重視した指導方法を研究し、生徒の基礎学力の向上に努める。	基礎力診断テストを2・3学期始めに実施し、成績優秀者と成績の伸びが大きかった者を表彰する。また試験の実施・分析により本校生の実態を把握し、基礎・基本的な学習内容の定着に努める。 ④⑤	A	B	ベネッセテストの成績優秀者を表彰するだけでなく、各問題毎の正答率、誤答率から学修領域の達成度を分析できるようにする。 ICTを「使用する」ではなく「活用する」という意識に切り替える。 成績不審者への対応策について、考査前後や長期休業中以外の方策を研究する。 生徒募集について、改めてその方策を検討する必要がある。
		学習意欲を引き出す教材及び授業法の研究に教科ごとに取り組み校内研究授業を実施する。少人数編成・習熟度別授業を実施し、生徒のニーズにあった授業を展開する。授業開始・終了時刻の遵守を徹底し、遅刻や欠席のない集中しやすい教室環境を維持する。 生徒の学力の伸び率を数値化により表現する方法を研究する。 ①③④⑭	C		
		ICT教育並びにアクティブ・ラーニングの研究と実践に努める。 ③④⑭	B		
	学習の遅れがちな生徒に対する適切な指導を充実させる。	定期考査実施前1週間、必要に応じ、学習の遅れがちな生徒に対して課題学習や放課後の学習指導を行う。 ③④	B		
		学習の遅れがちな生徒に対して、きめ細かなサポートや長期休業中各教科で課外指導を実施し、学習内容の確実な定着を図る。 ④⑤	B		
	生徒募集を充実させる。	生徒の志願者の増加を目指すために、生徒募集を充実させる。教務部広報広聴担当と連携して、学校の広報活動や資料の充実を図る。入学者の学校生活や進路状況等に関する資料を作成し、積極的に中学校へ伝える。 ⑪⑬	B		
教務部 広報広聴担当	学校の活性化を図る。	本校の教育内容を学校外に公表し、学校生活に前向きな生徒や部活動を熱心に取り組む生徒の情報を把握し、学校全体の活性化に繋げる。 ⑩⑪	B	A	広報活動をHPメインで行っているが、情報の受け手のニーズはYouTube, Instagram, Twitterなどであるため、それらの情報手段を効果的に用いられるように研究を行う。
		音楽コース県外募集については、音楽科主任と連携し、学校訪問等を積極的に実施する。また入学生の出身中学に対しては、近況の報告を定期的実施する。 ⑪	A		
	開かれた学校づくりの推進を支援する。	中学校の教職員や地域の方々との交流を図る。また、学校ホームページを積極的に活用して広報広聴に努める。 ⑪	B		
	保護者及び地域との連携を深めることにより、開かれた学校としての事業を推進する。	本校の現状に即したPTA・後援会・同窓会の活動を推進するため、年間役員会を積極的に開催する。来年度の創立50周年式典の準備を進めていく。 ⑬	A		
		登校指導(本校昇降口)や校外指導(駅巡視や夏季休業期間の地域巡視)をはじめ、学年ごとの事業を行い、地域社会との連携に努める。 ⑫⑬	B		

別紙様式 2 (高)

生徒指導	基本的生活習慣を確立させる。	さわやかマナーアップ運動を通して、規範意識や公共心を育成する。 ①②	A	B	発達に特性のある生徒への指導や支援について方策を引き続き検討していく必要がある。問題行動等に関しては必要に応じて外部機関と連携を図り、早期に解決できるよう努めたい。その他、学校生活を集団で送る上で「ダメなものダメ」と毅然とした態度で指導していくことも重要である。
		頭髪・服装といった身だしなみ指導を徹底し、注意が必要な場合にはその場できちんと直させたり、止めさせたりする指導を行う。 ①	B		
		生徒が規則正しい生活習慣を身につけ、遅刻や欠席が少なくなるよう担任や学年と連携を図る。また、普段から積極的に声かけを行い、生徒へ注意喚起を行う。 ①	B		
	問題行動の未然防止に努める。	いじめの未然防止（学校いじめ防止基本方針による）と適切な対応を行う。 ①②	A		
		生徒との面談、アンケートや日頃の「声かけ」により、生徒の様子を把握する。 ①②	B		
		登下校指導や町内の巡回指導、列車添乗指導など、家庭や地域と連携を図り、校外指導を実施し、生徒事故を減少させるよう努める。 ②⑬	B		
	生徒指導だよりを発行し、学校での問題点や指導について家庭との協力体制を深める。 ⑪⑬	A			
進路指導	生徒自らが主体的に進路を選択し、希望する進路を実現できるよう支援する。	進路希望調査や面談の実施、キャリア・パスポートの活用を通じて生徒の進路希望を把握し、その実現に向けた指導体制を整える。 ⑦⑧	B	B	学年・教科との連携をはかりながら、生徒が自らの希望・適性に応じた進路を選択・実現できるよう、キャリア教育をさらに推進する。放課後の学習活動をより充実させる等、進路実現に必要な学力の定着に向けた学習環境づくりを進める。
		ホームルームや総合的な探究の時間等において、3年間を見通した進路活動を行い、各学年において習得すべき目標を定め、生徒の進路意識を高める。 ⑦⑧	B		
		2学年で実施するインターンシップ（就業体験）では、早期からきめ細かな面接指導等を実施することで進路意欲を喚起する。 ⑦⑧	B		
	高校3年間を見通したキャリア教育の推進・指導体制を確立する。	各種課外や模試を実施し、基礎学力の定着や大学入試に対応する学力の育成を目指す。特に、進学希望者に対する個別指導を充実させる。 ④⑦⑧	B		
		進路相談室（学習室）の活用を図るとともに、「進路だより」や各種ガイダンスを通して的確な情報を提供する。 ⑥⑦	B		
		企業訪問を実施し、地域と連携して就職求人数の安定を図るとともに、企業の求める人材を育成し、早期離職のないよう、学校全体で就職指導を行う。 ⑦⑧	B		
特別活動	放課後サークル活動を活性化 する	1年生の放課後サークル活動への加入を促し、継続的な活動を行わせる。 ⑨	B	B	放課後サークル活動の精選を図る。茨城県部活動の運営方針の改定に沿った運営方法を実施していく。
		部活動の対外的参加を促進する。 ⑨	B		

別紙様式 2 (高)

	生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図る。	現在ある学校行事の魅力高め、生徒が意欲的かつ主体的に活動できるようにするとともに、諸行事を通してキャリア・パスポートを活用し、人間関係形成能力・課題対応能力等を高める。⑩	A	A	生徒会と生徒との連絡を密にし、学校行事に生徒の意見をより反映させる。東日本大震災被災地訪問はマーチングバンド部との連携を密に取る。
		「こころのボランティア東日本大震災被災地訪問」を「道徳」やLHRと関連付け、生徒がより意欲的かつ主体的に活動できるようにする。⑩	A		
		生徒の自主性と責任感を育成するために、生徒会活動をより活性化。ボランティア委員会を活用し、生徒会とともに計画的にボランティア活動を行う。⑩	A		
保健厚生	心身の健康づくり	保健室の充実と健康調査を定期的に行い、生徒の心身の健康管理に備える。①	B	B	健康診断を通して心身の健康作りを進めるとともに、学習環境としての校舎内の環境整備に提案をしていきたい。
		「保健だより」を毎月発行し家庭と連携を図るとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。①②	B		
	環境美化意識の高揚	校内清掃の徹底（学期に1度大掃除）とゴミ分別・再資源化推進への意識高揚に努める。②	B		
		地域社会における奉仕作業へ積極的に参加する。②	C		
危機管理態勢の確立	各種学校環境調査・測定に適切に取り組み、情報を速やかに開示する。防災避難訓練の計画・実施（年2回）及び「危機管理マニュアル」の利用徹底を図る。①⑮	A			
第1学年	基本的習慣の確立。人間関係づくりの推進。	規則やマナーを守ることの大切さを身につけ、適切な高校生活を送る事が出来るように指導する。グループワーク等を実施し生徒の人間関係づくりを推進する。①②	B	B	学習意欲の向上につながるような指導体制や進路行事を企画する。 欠席や早退を減らせるような方策を考える。 総合的な探究の時間をより活発にできるような体制づくりを考える。
		家庭との連携を密にし、遅刻・欠席・問題行動等の指導を迅速に対応する。①	A		
		他学年、生徒指導部と連携し服装頭髪指導を徹底する。①	B		
	基礎学力の定着と向上に努める。	授業の重要性を生徒に理解させ、適切な学習態度を身につけさせる。①③	C		
		授業担当者との連絡をとり、学習環境を整え、生徒の学習意欲を高める指導を心がける。①④	B		
総合的な探究の時間を年間指導計画に沿って実施する。⑩⑬	A				
第2学年	進路意識の向上を目指す。	進路指導部と連携してインターンシップを実施するとともに、総合的な探究の時間や進路ガイダンスを通して、進路意識の向上を目指す。⑦⑧	A	A	生徒が自己理解を深め、適切な進路を選択できるよう、個に応じた指導をしたい。 良好な生活習慣を維持しつつ、学校行事や学習にさらに積極的に取り組む姿勢を培いたい。
	生活習慣を確立するとともに社会性を身につける。	規則正しい生活習慣の継続を促す。①	B		
	基礎的な学力の定着・向上を目指す。	HR活動や学校行事を通して、良好な人間関係作りや奉仕の精神の向上に努める。②⑩	A		
		真摯な態度で授業に臨むだけでなく、積極的な学習活動を通して、学習内容の理解の定着を図る。③④	B		

別紙様式2 (高)

第3学年	社会人として求められる基本的な学力の定着・向上を目指す。	授業担当者と連絡を密にし、生徒の学習活動状況を把握するとともに、必要に応じて保護者面談等を行う。③④	A	A	進路決定までに準備が遅い生徒が見られたので、早期からの指導の必要性を感じた。 遅刻や欠席する生徒の改善が困難であった。保護者との連携を深めたい。
		適切な学習環境を整え、授業や学習することの重要性を生徒に理解させる。③④	B		
		検定試験に積極的に挑戦し、学力向上と自己実現に向けた努力を奨励する。③④	A		
	自ら適切な進路を選択する力を育成する。	進路指導部や生徒指導部と連携し、進路決定に関わる情報をHRや総合的な探究の時間や学年集会等を通して適切に生徒に伝える。⑥⑦⑧	A		
		社会の一員としてマナーや規範意識を理解させ、習得させることに努める。①②	B		
働き方改革	勤務時間を明確にする。	「きんむくん」を活用し、出勤・退勤時間を明確にする。⑩	A	A	校務分掌を超えた学校全体の視点から行事の精選を行うべきである。
		月ごとに出勤・退勤時間を確認し、勤務時間を把握する。⑩	A		
	業務の見直しを図る。	各分掌、委員会、学年等において、業務内容を確認し、不要な業務の削減等、業務の軽減化を図る。⑮	B		
		必要と判断された業務については、分業と協業の機能化を図り、平業化を推進する。⑮	A		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない